

長崎県子連NEWS

あすをひらく子ども会

長崎県子連ニュース No.39

平成30年(2018年)3月

発行/一般財団法人 長崎県子ども会育成連合会

〒850-0057 長崎市大黒町3番1号 TEL・FAX095-827-4574

URL <http://www.kodomo-kai.or.jp/nagasaki/> e-mail kdm42@axel.ocn.ne.jp



「ふるさとに学び、自尊心を高める体験活動を」

長崎県教育庁 生涯学習課 課長 原 洋

皆様方には日頃から子ども会活動を通して、ジュニアリーダーの育成や指導者の研修、伝承芸能大会の開催など、御尽力いただいておりますことに、敬意を表し、心から感謝申し上げます。

また、中島公彦顧問（前会長）におかれましては、昭和37年、県内に子どもを守る会が設置されて以降、55年間にわたる本県の子どもたちの健全育成に対する御尽力と多大なる御功績が認められ、「長崎新聞文化章（文化・教育部門）」を受賞されましたことに心からお祝い申し上げます。

さて、皆様も御承知のとおり、本県は少子高齢化、過疎化、人口減少・流出等の課題に伴い、群れ遊びの崩壊、子育ての孤立化、規範と連帯の希薄化など、子どもたちを取り巻く環境は憂慮する状況にあります。

このような中、県社会教育委員会から「このままでは、子どものふるさとが失われるかもしれない」という強い危機感のもと、20年後・30年後の長崎県を「住みたい、住み続けたい、訪れたい、もどってきたい」地域にするために、今何をすべきかを主眼とした答申が教育委員会へなされました。具体的提言は次の3点です。

1つ目は、共通の目的を持つ様々な団体や、地域住民が参画する既存組織を生かした「協働組織」を作ること。

2つ目は、幅広い住民の参加による、多世代交流・多機能型の「協働プログラム」を作ること。

3つ目は、協働活動を通じて、地域のリーダーやコーディネーター等の実践の人材を作ることです。

地域コミュニティの存続と地方創生、子どもにかかる様々な問題は、県内すべての市町の喫緊の課題であり、その解決には社会教育と学校教育が一体となった「地域総がかりの教育」が不可欠です。

このような中、「子ども会」はまさに子どもを核とした地域の「協働組織」であり、地域の老人クラブや婦人会、自治会、青少年健全育成協議会など、多くの方々子ども会の活動に関わり、「多世代交流・多機能型の協働プログラム」を実施することで、「実践的な人材育成」がなされています。

なかでも、子ども会や地域の人々によって受け継がれてきた伝承芸能は、そこで暮らす人々の思いを今に残す貴重な地域の財産です。私たちはその伝承を通じて地域の豊かな自然や四季折々の暮らしの中で生まれ、培われてきた人々の様々な祈りや願いを感じ取ることができます。

さらに、子どもたちが伝承芸能を学ぶことで地域の担い手として認められ、地域へ貢献しようとする思いやふるさとを愛する心を育てることにつながります。大人から子どもへ、先輩から後輩へ、技や精神の伝承を通して、地域の絆は深く太くなり、ゆるぎない地域の心のよりどころにもなります。

このように、郷土の歴史や文化の価値を理解し、ふるさとに誇りと愛情をもった子どもを育てることは、地域コミュニティづくりにとって極めて大切なことです。

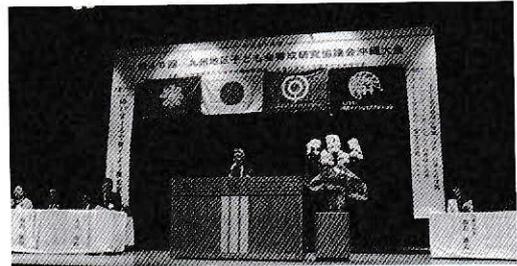
皆様には、子ども会の活動が、子どものみならず保護者や地域住民にとっても地域の絆づくりの上で、重要な活動であるということに誇りを持ち、今後とも推進していただきますよう御期待申し上げます。

第49回（平成29年度）九州地区子ども会育成研究協議会～沖縄大会～
 平成29年11月4日（土）～5日（日）： 那覇市：沖縄県男女共同参画センター

本年度の九州地区子ども会育成研は沖縄県開催で、九州各県から約230名が参加し、熱心な研究協議が行われました。

長崎県からの参加者は、九子連表彰受賞者2名を含め7名でした。

11月初めとはいえ気温20度超の暑さの中、各部会では熱い研究討議が行われました。



開会式

大会日程	
第1日目〔11月4日（土）〕	
①	アトラクション「那覇青少年舞台プログラム」
②	開会式・表彰式 <ul style="list-style-type: none"> ・ 黙禱 ・ 主催者・来賓あいさつ ・ 九子連表彰
③	部会協議 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1部会「子ども会の継承と地域・学校・行政との連携」(大ホール) ・ 第2部会「ジュニア・リーダーとシニアの育成と活用」(2階会議室) ・ 第3部会「子ども会の安心・安全な活動(KYT)」(3階研修室)
④	情報交換会（神宮會館）
第2日目〔11月5日（日）〕	
①	全体会 各部会協議報告
②	大会宣言文提案・採択
③	閉会行事 <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催県あいさつ（沖縄県） ・ 大会旗引継ぎ ・ 次期開催県あいさつ（大分県）



開催県あいさつ



部会協議



情報交換会



大会アトラクション



全体会（部会協議報告）



閉会行事



大会旗の引継ぎ

次回（平成30年度）は、大分県別府市で開催されます。
 【平成30年10月27日（土）～28日（日）】

長崎県子ども会指導者・育成者研修会〔雲仙市大会〕

- 1 日時 平成30年1月28日(日)
13:30～17:00
- 2 会場 吾妻町ふるさと会館
- 3 内容 ①県子連表彰式
②開会行事
③実践事例発表
④研究協議
⑤指導助言
⑥子ども会川柳表彰
⑦講評・閉会行事



開会あいさつ
県子連会長 北御門長蔵



祝辞 県生涯学習課
課長 原 洋 様



祝辞 雲仙市教育委員会
教育長 山野義一 様

「子ども会川柳」応募総数 786作品

◇子どもの部 最優秀賞 白山春花さん(雲仙市)
「自まんです 我が地区だけの この行事」

◇大人の部 最優秀賞 松尾千陽さん(雲仙市)
「交流は 学年越えて 世代越え」

平成29年度の長崎県子ども会指導者・育成者研修会は、雲仙市で開催されました。雲仙市子連と雲仙市教育委員会生涯学習課スタッフの一致協力態勢のもと、研修会は大成功のうちに終了しました。

雲仙市の三つの支部が活動事例を発表し、それをもとに、約120名の子ども会関係者が熱心に意見交換を行い、所期の目的を達成することができました。本大会では、事前に「子ども会川柳」の募集が行われましたが、研修会の中で、最優秀賞と優秀賞の表彰式も行われました。

研究協議会

「子どもの手による子ども会」の定着と発展を図ろう
～ジュニア・リーダーの手による子ども会運営を目指そう～

発表(1) 南串山支部 内田正和 様
「南串山町の子どもたちの成長と地域のかかわり」



子どもの数は増減を繰り返しながらも減少していきますが、私たちは、それを強みにして地域全体で目の届く見守りを行っていききたい。そのために、長年開催してきた事業を大切に育みながら、次代の子どもたちが変わらず元気に参加してくれるように引き継いでいきたい。

事例発表(2) 小浜支部 宅島由美子 様
「記録に挑戦！ オバマギネス大会」



活動の反省を含めて次年度に残し、情報共有を行いながら、個人・チームなど色々な形態で、「あこがれ作り」や「キラキラ作り」を増やす努力をしたい。今後は、子どもたちの多角的な事業への参加を推進しながら、子ども達の手による運営を図っていききたい。

事例発表(3) 国見支部 納谷忠重 様
「子ども会とは？ 活動から学ぶ子どもの成長の記録」



リーダー研修会を継続することで、育成者の協力態勢もできるし、協力者の確保も期待できる。今後は、リーダーをリーダーにする事業の見直しを行い、育成者が子どもの成長をサポートしながら、地域と関わりをもち、地域と連携していける子どもの成長を図っていききたい。

☆指導助言 県子連専門委員長 小谷富敏 様



子どもたちには「ふるさと意識」を育てたい。そのためのキーワードは四つ、①「緑」山や森、②「水」川や海、③「空」青空や星空、④「人」父母、祖父母、幼なじみ、などです。これらの体験を仕組み、自分のふるさとや大人たちへの憧れを子どもたちに育んでほしい。



全体進行
加藤大吉郎・本多かん奈 様



研究協議会



講評 市生涯学習課長
前田孝章 様



閉会あいさつ
中峰富男 市子連会長

平成29年度第39回 長崎県子ども会伝承芸能大会 in 五島市

昭和54年に始まり本年度で39回目を数える長崎県子ども会伝承芸能大会が、平成30年2月18日(日)、五島市福江文化会館において開催されました。市内はもとより県内各地から約300名の参観者がありました。開催にあたっては、地元五島市青少年健全育成連絡協議会ならびに五島市教育委員会の多大なご支援とご協力をいただきました。出演団体には県子連会長から賞状と記念品が贈られました。



玉之浦姫太鼓〔たまんな子供太鼓〕



司会

平成元年に創設された「玉之浦太鼓」は、当初、男太鼓と女太鼓(姫太鼓)に分かれて構成されていました。平成15年、玉之浦小学校児童有志により女太鼓が発足・継承されており、玉之浦町幾久山郷に伝わる絶世の美女「細御寮」の哀史に因んだものであるといわれています。



県教育庁生涯学習課 参事 椋本志 様

福江神楽〔住吉神社 福江神楽保存会〕



司会

五島市にある四神楽のうち、旧福江市の神社に伝わり奉奏されているのが「福江神楽」です。福江神楽は、一間四方(畳二枚)で舞う方式で激しい舞や滑稽な舞などがあり、裁着袴で舞う舞が多いことが特徴です。平成28年には五島列島の神楽が「国指定重要無形民俗文化財」に認定されました。



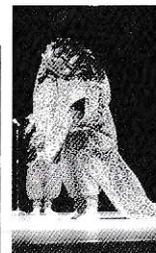
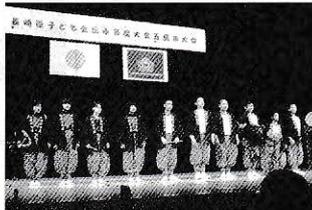
五島市教育委員会 教育長 藤田清人 様

岐宿獅子舞い〔岐宿町柔道部〕



司会

青年団解散後、途切れていた獅子舞いを、地元の要望もあって、平成17年から岐宿町柔道部が、獅子頭、太鼓等の道具を受け継ぎ、毎年舞っています。小・中学生約10名ほどの二班で、正月の2日と3日、地域をくまなく回り、各ご家庭の皆さんからは、たくさんのご祝儀、ご芳志を頂いています。



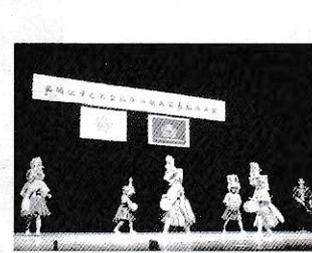
表彰式

オネオンデ〔狩立オネオンデ保存会〕



司会

オネオンデは、寛文2年(1662年)初代富江藩主の民部盛清公が五島福江藩から分藩後、福江藩のチャンコロ踊りを富江で演じさせたのが起りといわれています。豊年踊りですが、いつ頃からか念仏踊りへと変わり、現在ではお盆の時期などに踊られています。



講師：大塚昭三課長

獅子舞い〔里青年団〕



司会

三井楽里地区では、正月4日に氏子によって獅子駒舞が代々継承されていましたが、少子化に加え、若い人の島外流出が増加していく昨今、現在16名で構成されている里地区青年団が中心となって、この伝統を継承しています。



閉会挨拶：畑中重徳会長

平成29年度 県子連・九子連・全子連表彰 受賞者一覧表

平成29年度 全子連表彰

区分	地区	氏名	団体名 および 役職名	活動年数
個人	長崎市	松林・美	橘中学校区青少協 事務局長	27年

※ 全国大会延期により平成30年度に表彰式を実施

平成29年度 九子連表彰

区分	地区	氏名	団体名 および 役職名	活動年数
指導者	諫早市	小谷 富敏	県子連 専門委員長	15年
	長与町	松下一徳	長与町子連 会長	28年
	長崎市	池田安芸枝	長崎市子連 専門委員	31年



松下一徳 様



池田安芸枝 様

平成29年度 県子連表彰

〔 団 体 〕

区分	地区	団体名	代表者名	活動年数
子ども会	佐世保市	上本山1・2組桜台子ども会	末道弘樹 末光規子	64年
		卸本町陽光台育成部子ども会	松尾友暉 松尾紗夜加	51年
	川棚町	中組子ども会	坂田篤史 坂田典子	66年
	雲仙市	雲仙市子ども会育成協愛野支部	中村優香 福田文子	57年

〔 個 人 〕

区分	地区	氏名	団体名 および 役職名	活動年数
指導者	長崎市	米田久美	長崎市橘小学校区専門委員	12年
	大村市	川竹成稔	大村市子連 副会長	12年
	雲仙市	中峰富男	雲仙市子連 会長	10年



雲仙市愛野支部 様



米田久美 様



川竹成稔 様



中峰富男 様

お知らせ

子ども会共済業務委託費の50円値上げはしないことに決定

- 子ども会費として、長崎県子連と全国子ども会に、現在納めている子ども会費（160円）のうち、業務委託費10円を50円に値上げする改訂案が2年ほど前から検討されていましたが、新しく発足した共済制度検討委員会からの答申を受け、値上げはしないことに決定しました。
- 値上げによる会員数の減少、各都道府県間の予算の不均衡など、値上げによるメリットよりデメリットの方が大きいことなどが主な理由です。
したがって、平成30年度以降も、納める子ども会費は、増額されることなく、これまで通りの金額となります。



安全共済会の新システム導入へ

- 毎年度はじめに、3枚綴りの用紙で行っていた「全国子ども会安全共済会」への加入登録手続きが、パソコンでデータ入力する新システムでも行うことができるようになる予定です。新システムの詳細については、別途、各市町子連事務局を通して、お知らせします。
- 新システムは、単位子ども会の代表者が全国子ども会のデータベースにある様式にアクセスした後、登録・加入名簿・年間行事計画を直接入力できるようにするシステムです。
- ただし、「加入申込書」のみは、入力したデータを印刷して、従来通り、市町子連（契約者）に提出することになっています。
- 新システム利用のご案内・入力方法は、新システム導入後、全子連のホームページに掲載される予定です。
- 新システム（データ入力）が利用できない子ども会は、従来通り、3枚綴りの用紙に直接記入し加入・登録を行うことができます。

全国子ども会中央会議の開催自粛

- 平成30年2月23日～25日に滋賀県で実施予定だった、第51回（平成29年度）全国子ども会育成中央会議・研究大会は、不祥事の発生により、開催自粛となりました。
- 原因となった不祥事は、昨年11月、全子連元副会長が、10代の女子生徒に対して無理やりキスをした事件を起こし、20日間の拘留後起訴されたというものです。
日頃、子ども達の真の成長と幸福のために健全育成に取り組んでいる全国子ども会にとって、あってはならない不祥事の発生であり、今回の全国大会を自粛するとともに、全国規模の研修会を開催して信頼回復に向け再発防止策を講じていくことになりました。
- なお、第51回中央会議については、日を改め、平成30年7月14日（土）～15日（日）に、全子連表彰式も含め、名古屋市で開催予定となっています。



九州地区子ども会推進研究会 報告

- 現在、九子連に「子ども会推進研究会」が設置され、魅力ある子ども会活動の推進のために必要な方策を研究しています。各県2名ずつの20名の推進委員がいて、長崎県からは、諫早市の林和弘様、佐世保市の和泉徳仁様が推進研究委員として活躍しています。
- 協議の柱は次の4項目です。
 - ①子ども会の魅力発信・広報活動、啓発手法、加入促進等の方策
 - ②子ども会運営組織・組織論、指導者養成、ジュニア・シニア組織等の方策
 - ③事業の活性化・魅力ある活動プログラムの開発や企画プログラム
 - ④財政支援・会費や活動助成金などの財政的な支援方策等
- 1月20日（土）に開催された、第3回推進研究会では、平成30年度に向け、九子連及び九州地区育成研へ企画提言ができるよう、これまでの協議の取りまとめを行いました。
今後、九子連としての新たな取り組みが提示されることになる予定です。



「KYT」から「安全啓発」へ名称変更

全国子ども会連合会は、平成28年度から、子ども会の安全教育活動である「KYT（危険・予知・トレーニング）」の名称を「安全啓発」という名称に変更しています。たとえば、「KYT初級指導者養成講習会」が「安全啓発初級指導者養成講習会」と名称が変わっています。

なお、「安全啓発」の名称は指導者・育成者の立場から見た使い方であり、子どもの立場からは従来通り「KYT」の名称を使いますので、基本的な考え方や内容はこれまでとは変わりません。各種子ども会の事業や研修会等を利用して、広く子ども会の指導者や育成者に伝えてくださいますようお願いいたします。



子ども会安全啓発初級指導者養成講習会について

初級指導者養成講習会は、子ども会活動に携わる指導者・育成者が、安全普及啓発活動を理解するとともに、子ども会活動が安全に安心して運営できるようにすることを目的としています。

子ども会の指導者には、大きな事故が起きないように、日頃から安全啓発に取り組み、現場でのKYTを活動に取り入れていくことが求められます。まずは、初級指導者養成講習会により、基本的な用語・考え方等を理解し、安全啓発への取り組みを理解して下さるようお願いいたします。

受講者全員には修了証が渡され、後日、全子連から「初級指導者認定証」が発行されます。



安全啓発指導者認定制度に基づく長崎県の認定指導者数は次の通りです。

	市 町	初 級	中 級
1	長 崎 市	9	3
2	佐 世 保 市	3	2
3	島 原 市	5	1
4	諫 早 市	4	1
5	大 村 市	5	
6	五 島 市	5	
7	西 海 市	1	
8	雲 仙 市	2	
9	南 島 原 市	2	
10	長 与 町	3	
11	時 津 町	1	
12	新上五島町	2	
	計	42	7

※ 平成30年度安全啓発初級指導者養成講習会は、6月16日(土)、長崎市で開催予定です。

加入登録や事故発生後の安全共済金請求のお問い合わせは、所属市町子連事務局へ！

- 子ども会への加入手続き
- 安全共済会への加入手続き
- 事故後の安全共済金の請求手続き
- 請求できる事故や疾病の範囲
- その他、子ども会に関すること

- まずは、単位子ども会の代表者から所属市町子連事務局へお問い合わせください。
- 長崎県子連事務局へも遠慮なくお問い合わせください。
Tel・Fax : 095-827-4574
Email : kdm42@axel.ocn.ne.jp

平成30年度 県子連主要事業計画(予定)

事業名	開催日	会場
51回全国子ども会育成中央会議・研究大会	7月14日(土)～15日(日)	名古屋市中区役所
長崎県子ども会ジュニア・リーダー研修会	8月10日(金)～12日(日)	上五島海洋青少年の家
九州地区子ども会ジュニア・リーダー大会	8月17日(金)～19日(日)	福岡県 : 社会教育総合センター
九州地区子ども会育成研究協議会	10月27日(土)～28日(日)	大分県 : 別府市公会堂
長崎県子ども会伝承芸能大会	1月20日(日)	島原市 : 有明総合文化会館
長崎県子ども会指導者・育成者研修会	2月17日(日)	松浦市 : 東部交流センター
52回全国子ども会育成中央会議・研究大会	2月22日(金)～24日(日)	石川県 : 県立音楽堂

平成29年度 市町別加入会員数と加入率

平成30年1月31日現在

市町名	単子数	加入会員数						加入率(%)〔加入数/児童・生徒数〕			
		未就学児 (0-5歳)	小学生	中学生	高校生	指導者 育成者	合計	未就学児 (0-5歳)	小学生	中学生	小中計
県計	1,819	3,676	36,710	7,144	357	27,816	75,703	6%	51%	19%	40%
長崎市	251	502	5,842	754	40	2,948	10,086	3	24	7	21
佐世保市	272	681	7,387	853	20	5,138	14,079	5	54	12	40
島原市	139	356	2,277	345	9	2,950	5,937	16	99	30	76
諫早市	206	403	4,551	991	3	3,551	9,499	6	60	23	47
大村市	78	230	1,549	211	22	1,463	3,475	4	25	7	19
平戸市	101	184	1,122	338	6	1,004	2,654	14	74	45	64
松浦市	75	118	924	317	19	1,005	2,383	11	75	56	69
対馬市	26	19	806	394	0	335	1,554	1	51	48	50
壱岐市	25	39	1,031	182	0	159	1,411	3	69	24	54
五島市	70	116	1,464	294	10	1,028	2,912	8	87	33	69
西海市	66	141	1,176	493	37	1,028	2,875	12	92	79	88
雲仙市	121	220	1,749	409	0	2,043	4,421	11	78	37	64
南島原市	166	233	1,907	104	11	2,104	4,359	12	87	9	60
市計	1,596	3,242	31,785	5,685	177	24,756	65,645	6%	50%	17%	39%
西彼杵郡											
長与町	33	42	1,125	47	5	358	1,577	2	47	4	33
時津町	37	234	1,065	125	0	590	2,014	13	58	9	37
東彼杵郡											
東彼杵町	20	11	301	90	0	233	635	3	81	44	68
川棚町	32	40	744	398	2	878	2,062	6	98	94	96
北松浦郡											
小値賀町	16	18	78	39	7	40	182	21	94	85	91
佐々町	25	65	852	339	0	626	1,882	7	95	78	89
南松浦郡											
新上五島町	59	24	760	421	166	329	1,700	4	95	86	92
郡計	222	434	4,925	1,459	180	3,054	10,052	6%	62%	31%	51%
※事務局	1	0	0	0	0	6	6	未就学児・児童・生徒数は、 平成年29年度長崎県統計による			
合計	1,819	3,676	36,710	7,144	357	27,816	75,703				

※ 長崎県子連会員数の推移

年度	単子数	加入会員数						加入率(%)〔加入数/児童・生徒数〕			
		未就学児	小学生	中学生	高校生	育成者	合計	未就学児	小学生	中学生	小中計
29年度	1,819	3,676	36,710	7,144	357	27,816	75,703	6%	51%	19%	40%
28年度	1,878	3,862	38,683	7,950	438	29,002	79,935	6%	54%	21%	42%
27年度	1,925	3,702	40,118	8,588	433	29,909	82,750	5%	55%	22%	43%
26年度	1,968	2,687	41,375	9,219	476	30,694	84,451	—	56%	23%	44%
25年度	2,013	2,821	43,040	9,845	490	32,072	88,268	—	57%	24%	45%
24年度	2,051	2,978	44,560	10,335	563	33,165	91,601	—	59%	24%	46%
23年度	2,130	2,946	47,546	10,825	605	34,454	96,376	—	60%	25%	48%